

2020.7.26

- 主人公のキャラ設定を考える

2020.9.05

- 大枠の考え直し

- とりあえず細かい設定は抜きにして、骨組みを作り直そう（まだ凝る段階でない）

## 概略

---

- イベントというより日常っぽいパートも欲しい
- 晶の立ち振る舞いは？
  - 一周目はいわゆるギャルゲー的な展開でもいいんじゃない
    - 伏線は無理して入れずにとりあえず作ってみたらいいんじゃない
    - 結の存在を意識しすぎない
- 結が何かやってほしい
  - 展示物を壊す
  - 結が他のピアニストを騙して奏が演奏しなければならない状況を作る
    - もっと分かりづらい方がいいか
- 仮想世界
  - 性格 クール、明るい、圧倒的主人公
  - 身体的特徴 指が長い、175cmぐらい、普通の黒髪、運動できる、賢い、イケメン、キリッとした目、肌は白い
  - 非凡な才能を持つが兄には及ばず、コンプレックスを抱えている
- 現実
  - 性格
  - 身体 目が隠れるくらいの長髪

奏：ちゃらヤンキーと小銭を足して二で割ったような顔

兄：サラサライケメン

先生：理科の先生

結：

晶：

ござる（カナヅチ）：シリアルキラーショタ

攻略不可キャラ（八方美人、自分を出せない）：金髪ツインテール

不登校：サイコパス君

体育祭の団長（独りよがり）：ヤンキー君

音楽一家であることを示唆するような表現を入れたい。主人公の現実での欠点と関連したイベント

父「おい、一階から火が出ているぞ、なんでなんだよ。」

母「なんで我が家がこんなことに、熱い、熱いわ。」

父「やばい、もう火がここまで来てる。消防車は来ないのか。」

母「もうどうしようもないわ、ピアノもバイオリンも全部燃えちゃうのね」

こうしている間に火はどんどん広がる。もう逃げ道は二階の窓しかない。

奏「二階から飛び降りるなんて無理だよ。」

兄「奏、大丈夫だ。少々痛いだけだよ。それより熱いでしょ。奏から出なよ。」

奏「えーい、ままよ」

ジャンプ

ドーン（家が爆発）

奏「兄さん、父さん、母さん、どうして、どうしてだよ」

奏「僕がビビらずに早く飛び降りていればこんなことにならなかった。」

奏「うわああああ」

---

ピピピピ・・・、ピピピピ

7時か、そろそろ起きないと。嫌な夢を見てしまった。

奏「母さーん、飯できてる？」

母「できてるわよ、**お父さんとお兄ちゃん**はとっくに食べて出ていったわよ。早く起きてきなさい」

奏「はい」

おっ、今日の朝食はベーコンエッグ。僕は半熟の目玉焼きが大好きだ。さすがは母上殿、僕の好みをよく知ってらっしゃる。

奏「うん、うまい。」

母「それは良かった。それより、今日から水泳あるんでしょ、ちゃんとスタミナつけていきなさい。」

奏「はい」

季節は梅雨だというのにもう水泳が始まる。寒すぎやしないか？

（個人的にはイベントごとで運がいい展開に毎回なって、あれ、俺に都合よすぎない？っていうのをしたい。）

晶が家に迎えに来る

晶「おっはよー！息してる？」

奏「どんな朝だよ」

朝っぱらから失礼なこの娘は、久瀬晶。小学校からの腐れ縁だ。

晶「あれ、なんか変なこと考えてるでしょ！奏の考えてることはなんでもお見通しなんだからね！」

奏「な、なにってんだよ！早くしねえと遅刻すっぞ！」

---

（学校で）

ここは\*\*高校。特にこれといった特徴はないが、過ごしやすいところだ。

高校生活2年目も早二ヶ月が過ぎ、今日から水泳が始まる。

生徒A「奏、おはよー！」

B「おはよー！」

C「奏さま、ごきげんよう」

D「奏氏い、おはようでゴザル！こ、こんな寒い日に水泳なんて、どうかしてるでござるよ！」

奏「ああ、おはよう。」

晶「ねえ、今日来る転校生ってどんな子かな？」

奏「へえ、転校生が来るなんて初耳だな。」

晶「この前先生が言ってたじゃーん！」

「拙者は黒髪ロングの美少女を所望するでござるう！」

「イケメン王子様だったらいいなあ！」

奏「...そうだな。」

(チャイム)

先生「はい一席についてー。はい、今日は新しいクラスメイトを紹介します。じゃあ、自己紹介を。」

ガララ

入ってきたのは、まるで雪のように肌の白い、大人しげな女の子であった。

結「神田結です。よろしく。」

「ム、ムフォー！拙者ドストライクでござるううう！hshs」

先生「神田さん、あそこの席に座りなさい」

先生はそう言って、僕の隣の席を指差した。

僕の前に座る晶が、こちらに振り返って言った

「可愛い子が隣でよかったね」

奏「からかうなよ」

席についた結はこう言った。

「奏くん、よろしくね」

---

プールの時間が近づくと、梅雨とは思えないほど空が晴れてきた。

晶「山の天気と女の心は変わりやすいっていうしね」

奏「ここ、山じゃないぞ」

ここは街のど真ん中だ。

そろそろ更衣室に向かうか。

---

プールでのイベントを考える。

更衣室を出ると、男子達の見線は結に釘付けになっていた。

---

## 文化祭編

主人公の特長を際立たせる回。分量としてはプール編より長い。